



株式会社 バリューワークスエデュケイト
代表取締役社長

赤津 誠一郎

成長習慣を身に付け価値ある人材に 気鋭のバスケットボールスクール

バスケットボール界で、革新的な指導スタイルを持つスクールが誕生した。神奈川県川崎市を中心に日本全国で活動する「ValueWorks」である。運営元の(株)バリューワークスエデュケイトの代表取締役社長を務める赤津氏の信念や、仕事に懸ける思いとは何か。バスケットボール愛好者で知られるタレントの水野裕子さんが掘り下げる。

ロサンゼルスで受けた衝撃

水野 バスケットボールによる教育事業「ValueWorks」を手がけていらっしゃる(株)バリューワークスエデュケイトさん。バスケットボールを愛する者として、今日はすごく楽しみにしていました。

赤津 そう言っていただけると嬉しいです。簡単に自己紹介をさせてください。私がバスケットボールを始めたのは、小学3年生のときでした。当時は練習がつらくて活躍もできないし、嫌々やっていましたね。でも中学生のときに、「こうすればシュートが入るようになる」と聞く瞬間があって、それからは誰よりも練習に取り組んだんです。すると、自分でもおもしろいように上達していき、バスケットボールがどんどん好きになりましたね。社会人になってからも、ミニバスのコーチとして指導したり、プレイヤーとして社会人クラブチームに所属して全国大会に出場したりするなど、仕事の傍ら、バスケットボールを続けていました。

水野 社長はお若いながら経営者としての才覚をお持ちだったんですね。

赤津 ありがとうございます。ただ、その会社は28歳のときにすべて売却しました。というのも、IT業界にチャレンジしたかったんです。新しい分野に挑戦する以上、過去の栄光を捨てて身一つで

水野 筋金入りのバスケットボール好きとお見受けしました。そんな赤津社長が、起業に至るまでの経緯が気になります。

赤津 福島県いわき市にて代々居酒屋やバーなどを営む家系に生まれ育ったこともあり、高校卒業後は跡継ぎとしての道に進むことを決意しました。接客力をつけるために2年ほどさまざまな業種に携わり人生経験を積んだ後に、満を持して板前修業を始めたものの、専門卒の同期のように働き心労が重なってしまい、挫折をしてしまいました。行き場もなく地元に戻ったときに、ビジネスチャンスを感じ父親を説得して飲食店を立ち上げました。結果的に、5店舗まで規模を拡大できました。

水野 社長はお若いながら経営者としての才覚をお持ちだったんですね。

赤津 ありがとうございます。ただ、その会社は28歳のときにすべて売却しました。というのも、IT業界にチャレンジしたかったんです。新しい分野に挑戦する以上、過去の栄光を捨てて身一つで

取り組むくらいの覚悟がなければ大成しないと思いました。過去の反省を生かし、26歳で会社の経営をしながらITの専門学校に通いました。卒業後、28歳でIT企業に入社し、半年でMVPを受賞できました。その後は3社にわたって、研修講師や部長職、役員などを務め、幅広い経験を積んでいました。

水野 覚悟を持って、大きな決断をなさったと。そこからはどのようにして御社の立ち上げに至ったのですか?

赤津 きっかけは、結婚して子どもができたことです。我が子にバスケットボールを教えたかったものの、娘が入学する学校にはミニバスクラブがなかったんです。遠方のチームに通うにしろ、当時は厳しい制度がありました。さらに我が強い性格だったため、万が一所属チームの指導に納得がいかなかったらチームの輪を乱してしまうだろうと考え、チームに所属することはあきらめました。そこで近くの体育館を借りて、自分でバスケットボールを教えたのが始まりです。

Profile

小学校3年生からバスケットボールを始める。高校を卒業してからは飲食業に携わり、20代前半で自身の飲食店を開業。わずか数年で5店舗にまで規模を拡大させた。28歳のとき、さらなるチャレンジを見据えIT業界に転身。数社で業務に携わる中で、研修講師や部長職、役員などを経験する。その後、自身の子どもがきっかけでバスケットボールスクールをスタート。研修で訪れたロサンゼルスでの指導方法に衝撃を受け、それを広めるべく36歳で再独立を果たし、(株)バリューワークスエデュケイトを立ち上げた。

水野 スポーツ界は特に、昔ながらの軍隊のような指導法が残っていますよね。

赤津 はい。私自身そうした環境で育つたこともあり、子どもにそのような経験は絶対にさせたくありませんでした。より良い指導を模索する中で、「バスケットボールの本場では、子どもたちにどのような指導を行っているのだろう」と思ったんです。それで、居ても立ってもいられずロサンゼルスに研修に参加した



ところ、現地の指導に稻妻が落ちるような衝撃を受けました。これまで自分が受けた指導とは、想像を絶するほどの違いがあったんです。そして、「知ってしまった以上、私はこの素晴らしい指導スタイルを日本に広める責任がある」と決意し、本格的に活動を始めました。

水野 よほど衝撃を受けたんですね。その後の展開が気になります。

赤津 活動を行っていく中で、私の思いに共感してくれる仲間が少しづつ増えていきました。ある日、ロサンゼルスと一緒に研修に参加した後輩が、「赤津さんと一緒にやりたいです」と言ってくれたこともあり、2019年に法人化し自社ト

レーニング施設をオープンしたんです。大変なこともたくさんありましたけれど、ここまでこれたのは周りの方々に恵まれたおかげだと思っています。

唯一無二の指導方針

水野 御社が手がける「ValueWorks」について教えてください。

赤津 「ValueWorks」は、神奈川県川崎市を中心に日本全国で活動するバスケットボールスクールです。日本一を3度達成した実践学園中学校の森圭司先生とご縁があり、実践学園のスキルコーチも努めています。ロサンゼルスで最先端の指導法を学び、独自のカリキュラムを構築して年齢や経験に応じたトレーニングを提供しているんです。そのため、当スクールではスポーツ界でありがちな昔気質な指導は一切行っていません。

水野 指導方針について、もう少し詳しくお聞かせいただけますか？

赤津 例えば、「Just Try It」という当スクールのスローガンがあります。これは「失敗は成功の素だからこそ、失敗を恐れずたくさん挑戦しよう。できるようになったら、今度は失敗するレベルまで工夫してみよう」ということです。失敗はあくまでも挑戦の証、基準なんですよ。成長も失敗も褒めることで、子どもたちには失敗を恐れず挑戦を楽しむマインドを身に着けていただきたいんです。

他にも、「Be a Great Player」という言葉を掲げています。もともとは、「素

晴らしい選手になろう」と定義したものですが、しかし、指導を続けるうちに意味が変わり、今では「素晴らしい演技者になろう」と伝えています。というのも、私たちコーチもコーチとして成長するためには、普段の自分を脱ぎ捨て素晴らしいコーチを定義し演じることが必要です。そして時間をかけてコーチとしての人格が育まれていきます。同様に選手も憧れの選手やコーチを見つけ「真似をする」、つまり「演じること」で成長速度が加速すると考えているんです。スキルと呼ばれる技を身につけさせるよりも、役者さんのように人に価値を与える技を演じられる人、「素晴らしい演技者」を育てたい。Playには「演じる」という意味も含まれるんですよね。

水野 つまり、単にバスケットボールの技術を伸ばすのではなく、人間的な成長につなげていくということでしょうか？

赤津 おっしゃるとおりです。バスケットボールはボールを持っている人や得点を多く取る人が主役なのではなく、演劇のように台本にたくさんの台詞や振る舞いが書かれているコミュニケーション力の高い人が主役なのです。コーチはその模範となるように、コート上では情熱的で温かく選手を鼓舞する振る舞いを意識します。それが、「コーチングエンターテインメント」と呼んでいる当スクールの指導方法です。「コートに立ったらコーチも選手も別人だよ。より良い自分を演じよう！」と伝えています。

水野 コーチはどのような方が多いのでしょうか？

赤津 当社のスタッフは半分が大学生で、半分が私より年上で、経営者や大手企業の部長職など社会経験を豊富に持つ方がそろっています。若いコーチだけではなく、人の気持ちの扱い方や、どうすれば他人をいい方向に導けるかなど、社会人経験が教育を行っていくうえで非常に重要だと思っています。私自身も40代になって、ようやく世の中のことが少しあかるようになってきましたから。

水野 確かに、長い人生経験の中で酸い

も甘いも噛みわけてきた方の言葉や行動には、確かな説得力がありますよね。

赤津 そうなんです。私たちコーチも常に学び、成長していくなければなりません。だから、当スクールでは選手とともにコーチ育成も掲げています。「今の言葉、こういうふうに言ってあげたほうが良かったかもね」と、社会人コーチが若いコーチに伝えてあげられる環境。そうやってコーチもたくさん学び、経験を重ねていく環境づくりが、より多くの選手に素晴らしい時間を提供するうえで欠かせないことだと考えています。

水野 では、運営していくうえで、社長が大切にしていらっしゃる部分は何でしょうか？

赤津 それは保護者と地域との連携です。選手の成長をより素晴らしいものにするには、コーチ、保護者、地域が三位一体となって選手を支援することが必要だと考えています。コーチだけが力を持ってはいけません。さらに保護者の負担ばかりが増えたり、地域のイベントが後回しになったりするのも良くないこと。それぞれの役割を明確に定義し、互いに支え合いながら素晴らしい育成環境をつくっていくことが肝要なのです。

水野 ちなみに、スクール名の「Value Works」にはどのような意味が？

赤津 「ValueWorks」には、「人に価値を感じていただくために働く！」という意味を込めました。価値とは、自らで定義するものではなく、他人に認めて

らうもの。私たち一人ひとりは、それぞれが必ず価値を持っており、その価値が一つになり、団結したときにこそ大きな価値が生み出されます。私は保護者の方を、選手を育成するためのパートナーだと思っているんです。選手の数だけ保護者やコーチが増えていく、その価値が団結したときにこそ、子どもたちのためにより良い仕事ができると信じて活動を行っているんですよ。



謝の言葉をいただけたりすることですね。自身すごく嬉しい気持ちになります。また、私は活動を通じて、いざれは世界中の育成・教育環境の発展に貢献していきたいと本気で思っているんです。

水野 では最後に、今後のビジョンについても教えてください。

赤津 引き続きスクール活動に力を入れていき、全国に「ValueWorks」で育ったコーチを輩出していきます。また、より良い子どもたちの成長環境を研究・発信していくべく、(一社)スポーツコミュニティ・ラボを設立しました。そこで、クラブチームを複数マネジメントします。全員が試合に出場できるクラブの組織づくりを目指し、これからも三位一体で挑戦を続けていきますので、応援をよろしくお願い致します！

バスケットボール界の文化を変える

水野 お話をうかがっていると、社長が生き生きと事業に取り組んでいらっしゃる様子が伝わってきます。その情熱の源はどこにあるとお考えでしょうか？

赤津 やはり、指導を通じて子どもたちの笑顔が見られたり、保護者の方から感



VALUE WORKS EDUCATE Co., Ltd.
株式会社 バリューワークス エデュケート

〒213-0022
神奈川県川崎市高津区千年 141-3
URL <https://valueworks-educate.co.jp/>



◀ バスケットボールスクール「ValueWorks」。スクールの雰囲気を知るために、経験を問わず無料体験を実施している
URL <https://valueworks.jp/>



◀ パートナーシップを組む「川崎スーパーソニックス U15」。川崎市を拠点として小学6年生～中学3年生までを対象にクラブチームとして活動している

Guest Comment>>

水野 裕子（タレント）

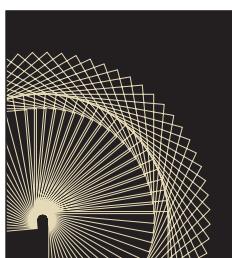
バスケットボールは、誰もが知っていて一度はプレーしたことがあるスポーツです。それと同時に、競技者経験がある人以外に裾野が広がらないスポーツとも言われています。その要因の1つとして、学校以外でバスケットボールができる場所が、他の競技に比べて少ないことが挙げられると思っていました。だから、「Value Works」さんのようなスクールができたことが、私は本当に嬉しいです。赤津社長の事業に懸ける思いにも大変感銘を受けました。ここから未来のスター選手が誕生する日を楽しみにしています！





「子どもたちが健やかに成長できる環境を整えるために、コーチ、保護者、地域が三位一体となることが大切です。私は価値のある活動を続けていきます！」

対談記事 ▶▶ 036_p



株式会社 バリューワークスエデュケイト

代表取締役社長

赤津 誠一郎

バスケットボールスクール「ValueWorks」を手がける（株）バリューワークスエデュケイト。同スクールの名前には、「価値のある仕事をしよう！」という思いが込められている。「価値は自らが押し付けるものではありません。自分自身が成長することで、人に認めてもらえるものなんです」。そう語る同社の赤津社長は、子どもたちの健やかな成長のためにコーチ、保護者、地域が三位一体となることこそが大切だと考えている。その理想を実現するべく、“Just Try It” の精神でまい進を続けていく同氏の活躍から目が離せない。